

【行方市】 校務DX計画

【現状】

行方市では、令和2年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきている。またクラウドツールの活用も進んでおり、特に課題はない。

しかし、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、押印の見直し、教育情報セキュリティポリシーの策定、校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) 押印の見直し

学校で取り扱う書類で、教育委員会から押印を求めている書類があるため、“押印待ち”といった無駄な時間が発生し、押印待ちによる残業等も発生している状況である。またそれによりペーパーレス化も進んでいない。

FAXの廃止に向けては以前から取り組んでおり、利用は緊急時など必要時以外の廃止が完了している。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの必要性

令和6年11月時点での本市の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」における「自治体のセキュリティポリシーとは別に、教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定しているか」の項目については、策定していないが自治体ポリシーを準用している状況である。

学校においては児童生徒に関する様々なデータを扱っていることから、教育現場特有の事情を踏まえた情報資産の守り方等を定める教育情報セキュリティポリシーが必要である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

行方市では、学習用端末で管理しているデータについて、必要に応じてUSBを使い、校務用端末へデータ移行している状況であるが、USBを使用する際の事務手続きによる業務負荷の増加、USBの紛失リスクといったことが懸念される。

【取組方針】

現状と課題から行方市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) 押印の見直し

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。具体的には従来の紙保管から電子保管へと移行し、電子のものを原本とする。それにより押印を廃止、ペーパーレス化を推進していく。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提としたGIGAスクール構想に相応しいセキュリティレベルを確保する中で、データ利活用や個別最適な学び等、新たな時代に相応しい教育DXの基盤を構築するために、教育現場の現状を踏まえて、情報資産を守るための「教育情報セキュリティポリシー」を策定し、教職員への研修等を行う。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務系と学習系のネットワークの統合を踏まえ、データ連携やセキュリティ対策などについての調査を進めるとともに、現在の校務系サーバ・校務用端末の更新時期やネットワーク統合後の運用も視野に入れ、取り組みを進める。

ネットワークの統合により、教職員の端末を1台にすることで、USBを使用したデータ移行などの業務負担を軽減する。また、USBを廃止することで、紛失による情報漏洩リスクや情報の散在による漏洩リスクの軽減を図る。